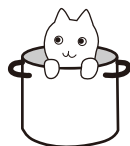


日本人の歴史は 「なべ」と共に



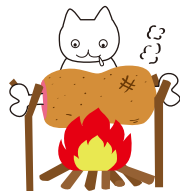
歴史民俗資料館では現在、企画展「考古学をはじめよう。」を開催中です（～8/31まで）。

そこで、考古学の基本である「土器」について少しだけご紹介します。

遠い昔の日本列島で、長時間火にかけて水や食物を煮込むことができる土器が発明されました。いわゆる「なべ」の機能の誕生です。この発明により、人々の栄養摂取効率は飛躍的に向上したと考えられています。これ以降、私たちのご先祖は常に「なべ」と共に生きてきました。

約 35,000 年前くらい 常陸大宮市に人が住みはじめた？

旧石器時代



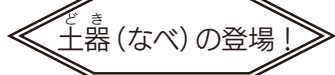
直接焼いたり、石を使って蒸し焼きにしたりしていた



約 15,000 年前くらい

温暖化によって動物が小型化＆植生が豊かに

草創期



ふかばち深鉢



煮ればなんとかなる！



縄文時代

中期

ふかばち深鉢



ふかばち深鉢

晩期



約 2,400 年前

弥生時代



つぼ 鉢



約 1,700 年前

かめ 甕

前期



古墳時代

後期

かめ 甕



カマドの登場



火のあたる一番上のほうが焦げるよ



約 1,300 年前

かめ 甕



奈良・平安時代

鍋という言葉を使い始める

約 900 年前

ないじなべ 内耳鍋



カマド + 囲炉裏での調理

ぶら下げる用の取っ手（内耳）がある

中世

約 400 年前

ないじなべ 内耳鍋（浅くなる）



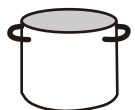
なべ 鍋



鉄製が一般に普及

約 100 年前

近現代



なべ 鍋



ガスコンロの普及



このように、土器（なべ）の変化から、人の暮らしの変化や時代の変化がわかります。モノから過去を読み解く…、それが考古学です。

（歴史民俗資料館 中林 香澄）